な準備教育オンリーの教育ママ、パパが氾濫している。

本校は全教職員、生徒一致協力し研究努力を重ね、本校なりの指導を確立し、実践してきた結果、学習意欲が確かに向上し、教師と生徒の親密感も増し、悩み等についても自発的に相談することが多くなってきているが、この道は一朝一夕でなされるものではなく、今後も補足訂正しつつ研究を続けていきたいと思っている。

（3）体育館・市民プールの竣工落成

昭和 41 年４月１日、第６代校長 湯浅藤吉氏が着任。湯浅氏は親友であり、スポーツ仲間であった鳴門第二中学校の久住　勉氏と両校でスポーツの交換競技会をしようとの話がまとまった。早速８月の夏休みを利用して、陸上競技、野球、バレーボール、テニスの試合が鳴門第二中学校で行われた。鳴門第二中は大歓迎。新しい校舎、広い運動場、大きな体育館、50 メートルプール等、本校とは比較にならない設備に生徒は感激し、親睦と友情、技術の交換が行われ有意義な交換競技会が終了した。翌年坂中へお迎えすることとなったが、運動場は狭く、体育館（雨もりのたえない講堂）は古く、プールはない。しかし、生徒たちは一生懸命誠意を持って迎え、競技も和気あいあいのうちに進み、両校の親交が深まった。

体育館の新設を痛感していた湯浅氏は、市の真島教育長に新しい体育館建設を強く陳情した。この事がきっかけとなって、昭和 44 年６月、市当局の計画で、鉄骨平屋建一部２階の体育館が竣工した。高い天井・木の床を希望したが、予算の関係で天井が低く、床はディーオーテックス（県奨励）のもので、満足するものにはならなかった。昭和 62 年９月、床は板張りに改装されたが、既設のバスケットリングはそのままの為、規定より７センチメートル低くなっている。

市民プール建設の話が持ち上がった折、湯浅氏は坂野中学校に併設するように、当時の責任者堀本勝社会教育課長に強く要望、運動場の拡張が必要となり、PTA 役員との協議の上市当局に陳情、議会も承認して建設が実現された。昭和 45 年３月 31 日、湯浅氏の退職の日に市民プールが竣工した。当時、近くにプールもなく、坂野小・中学校の児童・生徒は勿論のこと、多くの市民が利用した。

（4）佐川龍夫君　全国発明工夫展「恩賜賞」 受賞

昭和 44 年２月、第 27 回全日本学生児童発明工夫展において、本校３年生 佐川龍夫君（14 歳）が学生児童では最高の恩賜記念賞を受賞した。この賞を受賞したのは徳島県で佐川君が初めてである。佐川君は友達が溺れそうになったのに何もできなかった自らの体験をもとにして、「水難救助用バンド」を完成させた。その作品は、普段は普通のベルトとして着用し、水難事故に遭遇したとき、バックルを投げ

友情の知恵に恩賜賞

水難を見て苦心3年

日本学生児童発明展を飾る

坂野中学 佐川君の救助バンド

藤永教諭も入選

（昭和 44 年２月３日　徳島新聞）